

住居学科 篠原聡子教授が 2014年日本建築学会賞(作品)を受賞しました

日本女子大学家政学部住居学科の篠原聡子教授がこのほど、2014年度「日本建築学会賞(作品)」を受賞しました。日本建築学会賞は、作品・論文・技術・業績の4部門で構成。作品部門には41作品の応募があり、その中から「SHARE yaraicho」(篠原教授と内村綾乃氏=A studio 主宰=の共同設計)を含む3作品が選ばれました。

「SHARE yaraicho」は、個室とコモンスペースを典型的な関係としてとらえるのではなく、個室をコモンスペースの中に浮遊もしくは漂流させるという空間モデルとして提案。シェアハウスが備えるべき個のプライバシーとコモンスペースの充実をその独創的な空間構成によって創出するとともに、地域に開かれた建築の在り方を提案し、シェアハウスとして社会に大きな影響を与えるものとして高く評価されました。

篠原教授は今回の受賞に関して「振り返ってみれば、単身者居住と集合住宅は、私が1997年に日本女子大学に着任して以来のテーマでした。それが今回『シェアハウス』という形で建築となりました。したがって、受賞の対象は建築作品ですが、本学での学生との調査研究活動の成果でもあります。そのことが何よりの喜びです。この受賞を、今後の活動の励みとしたいと思います。」と述べています。

同賞の授賞式は、2014年5月30日(金) 15時から、
建築会館ホール(港区芝5丁目)で行われました。

受賞作品・理由はこちらのリンクからどうぞ。

日本建築学会ホームページ：<https://www.aij.or.jp/2014/2014prize.html>

SHARE yaraicho



キッチン

photo by Spatial Design Studio



吹抜け

photo by Taro Hirano

👉 大学院の授業を覗いてみよう！

「安全・感性工学システム論Ⅱ」

大学院修士1年次 後期授業
科目担当：石川孝重教授

この講義では、安全で快適な居住空間を確保するために、住まい手の視点を見据え、器である建物の構成の仕方を追求する。強度・剛性性状としては構造安全の基本理念から安全性能の実現システムまでを対象にして設計実務に応用するための知識をつける。特に使用性能のレベル

設定で指標となる住まう人間の心理や感覚の評価法（感性工学）をとりあげ、性能設計手法としてどのようなレベル設定が可能かについて考究する。ゼミナール形式で行い、設計手法と性能設定を説明できるコミュニケーションスキルの育成を特に重視する。

素材を活かして「光の教会」を理解する

今年の「安全・感性工学システム論Ⅱ」は履修者のニーズと話し合いから、材料と構造の成り立ちを考えることになった。前期には「構造パースペクティブ」（日本建築学会）を教材として、具体的な建築構造物を取りあげ、その特徴的な構造システムと建築物の形や力の流れの関係を理解した。

地震や風などの外力を如何に基礎、地盤へと伝達し、力を釣り合わせる事ができるか？

RCの素材と建築美の融合を如何に実現したか？

これらを「光の教会」の1/30のスケール模型を造ることで解明したいと考えた。その際にこだわったのがコンクリートの質感と補強である。モルタルをラスで補強することで強度を確保し、型枠にモルタルを打設し、水中養生することで、コンクリートの素材感をだす。学生はこの一連の生産プロセスでも多くを学んだが、出来上がった「光の教会」模型の重量も尋常でなかった。総重量の計算を怠ったことは実感となって表れた。

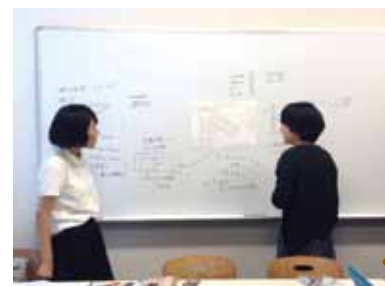


茨木春日丘教会「光の教会」

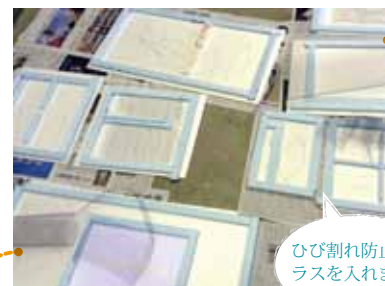
設計／安藤 忠雄
所在地／大阪府茨木市
竣工年／礼拝堂1989年 日曜学校1999年
構造／RC壁式構造



「光の教会」完成



step1: 必要な部材を考える



ひび割れ防止にラスを入れます。

step2: 型枠づくり



水に入れておくと、強度が増します。

step3: 水中養生後、脱型



step4: 仕上げ・組立作業

表面をきれいに磨いて最後の仕上げ！